

ラジオNIKKEI ■放送 毎週木曜日 21:00~21:15

# マルホ皮膚科セミナー

2014年8月21日放送

「第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会①

大会を終えて」

金沢大学 皮膚科  
教授 竹原 和彦

## はじめに

第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会の会長を務めさせていただきました、金沢大学皮膚科学教室の竹原和彦でございます。まずは、このような伝統ある学術大会を主催させていただいたことを大変光栄に存じます。学会は、2013年11月29日より12月1日、金曜日より日曜日に、晩秋の古都、金沢市にて開催させていただきました。会場は参加者の皆様の利便性を考えまして、金沢駅近くのホテル日航金沢とさせていただきました。なお、予定していた以上に一般演題のご応募いただいたため、予備会場として用意していた市民公開講座会場の金沢アートホールを最終日にD会場として使用しました。

会期が日本アレルギー学会と重なってしまったことにより、応募演題数や参



加者数が伸び悩むことが心配されましたが、一般演題数は、例年より 20 題近く上回る 145 題、有料参加者数も 100 名以上上回る 608 名、加えて招待参加者 136 名にご参加いただきました。また企業セミナーにつきましても、計 15 のセミナー、また企業展示につきましても計 17 社の展示の参加をいただきました。この場を借りて、すべての参加者・参加企業の皆様に御礼申し上げます。

### 十分な討論時間を取った一般演題

さて、本学会を企画させていただくに当たりまして、いくつかの工夫をしました。その工夫した点を紹介しながら、本学会を振り返らせていただきます。

まずは、一般演題の時間を、発表 6 分、討論 4 分、計 10 分とし、十分な討論時間を取らせていただきました。例年、本学会の一般演題は発表と質疑合わせて計 5 分で行われてきましたが、これまでは会場の先生方が質問を遠慮されて討論を控えた結果、欲求不満状態にあるように感じられました。そこで思い切って、例年のちょうど倍の時間の 10 分を各一般演題に割り当てました。そのように企画しましたが、最も心配していたのは質疑が盛り上がりずに時間が余ってセッションごとに休憩時間ができてしまうことでした。しかしながら、どの会場、どのセッションでも、十分な質疑の上で、時間が余ることも超過することもなく進行していったようです。進行にご協力いただきました座長の先生方に感謝致します。

### 興味深い症例

また、「興味深い症例」というセッションを設けました。このセッションは、全一般演題より、エキスパートの先生 6 名に選抜いただいた 6 症例の発表をいわば「症例報告のプレナリー」セッションとして全参加者に聞いていただくというもので、2 日目の午後 A 会場で他会場はクローズした状態で行いました。新しい企画ではありましたが、本学会らしい特徴が出せたセッションであったと自負しています。発表頂いた演者と演題名は以下の通りです。

加古川医療センター・足立厚子先生より「トイレットペーパーによる接触皮膚炎症候群の 1 例」、富山大学・乗杉理先生より「末梢血単核球サイトカイン mRNA 発現を用いて診断した桂枝茯苓丸料で生じた薬疹」、横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター・若松美智子先生より「美白化粧品に含まれる 4-ヒドロキシフェニル-2-ブタノールによる接触皮膚炎の 1 例」、神戸大学・織田好子先生より「ステロイドパルス療法が著効した寒冷誘発性コリン性蕁麻疹を合併した減汗性コリン性蕁麻疹の 1 例」、大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター・吉岡詠理子先生より「著明な高カリウム血症と脳萎縮を認めた重症乳児アトピー性皮膚炎の 1 例」、山梨大学・猪爪隆史先生より「歯科セメント成分による口腔粘膜の接触皮膚炎と考えられた 1 例」をご講演頂きました。

## 5つのシンポジウム

シンポジウムは、各開催日の午前、午後の A 会場で計 5 つを企画しました。オーガナイザーには例年よりフレッシュな方をお願いしました。開催順に、以下のようになりました。北海道大学・阿部理一郎先生と慶應大学・永尾圭介先生の企画で「薬疹の理解に必要な免疫学」、社会保険中京病院・小寺雅也先生と福井大学・長谷川稔先生の企画で「膠原病診療の実践」、NTT 東日本関東病院・五十嵐敦之先生と聖マリアンナ医科大学・相馬良直先生の企画で「今日のアトピー性皮膚炎治療をめぐる諸問題」、和歌山医科大学・古川福実先生と島根大学・森田栄伸先生の企画で「蕁麻疹・食物アレルギーの臨床所見を読み解く」、加古川医療センター・足立厚子先生と京都大学・椛島健治先生の企画で「臨床と基礎のクロストークから生まれる接触皮膚炎の新世界」でした。

## 特別講演と教育講演

特別講演と教育講演は 2 日目と 3 日目の午前に A 会場と B 会場で同時開催しました。本来でしたら、特別講演は 1 会場でだけ行るのが通例かと思いましたが、参加者の関心が均一ではないことを考え、特別講演ではやや臨床的なことを、教育講演ではやや基礎的なことを企画しました。具体的には特別講演として Texas-Houston 大学の Filemon K. Tan 先生より「Update on the Genetics of Autoimmune Skin Diseases」、金沢大学小児科の谷内江昭宏先生より「原発性免疫不全症と遺伝子復帰；皮膚が教えてくれる revertant の暴走」、教育講演として金沢大学分子遺伝子学の村松正道先生より「B 細胞の抗体産生機構とその意外な副業」、徳島大学疾患プロテオゲノム研究センターの峯岸克行先生より「アトピー性皮膚炎を合併する免疫難病の病態解明」をご講演いただきました。どの講演も好評いただいたようで、嬉しく思います。

## 企業セミナー、市民公開講座

企業セミナーについては、イブニングセミナー6企画、モーニングセミナー3企画、ランチョンセミナー6企画のご参加をいただきました。同時開催の内容が重ならないように、原則 A 会場は抗ヒスタミン薬関連、B 会場は生物学的製剤やその他の免疫調整薬、C 会場はその他抗菌薬、抗真菌薬、検査試薬など本学会の裾野を広げる意図で例年参加していただいていた企業にご参加をお願いしました。毛色の異なる C 会場の入場者が常に気になりましたが、予想以上に各会場に参加者が分散され、よかったです。

最終日の午後には市民公開講座も開催させていただきました。金沢赤十字病院・川原繁先生より「乾癬治療の最前線：乾癬とうまくつきあうために」、東京逓信病院・江藤隆史先生より「知って得するアトピー性皮膚炎の基礎知識」をご講演頂きました。

## おわりに

最後に学術的なことではありませんが、初日 11 月 29 日金曜日夕方にはウエルカムドリンク、2 日目 11 月 30 日土曜日夜には懇親会にて参加者の皆様に心ばかりのもてなしをさせていただきました。学会直前に「食材偽装問題」が世間を騒がせていましたが、会場であるホテル日航金沢の協力を得て、すべての料理を北陸の食材で用意させていただきました。特選寿司、能登牛ローストビーフ、のどぐろ海鮮鉄板焼き、治部煮、鰯大根、氷見うどん、越前そばなどを用意させていただきましたが、開演 1 時間過ぎの時点ですべての料理が完食となりました。「北陸の学会は美味しいものを期待するんだよね。」と言われ続けたプレッシャーに何とか耐えうるもてなしとなったかと思います。

最後に、本学会は会長である私がやりたいと思った通りに運営できたかと思えます。特別講演・教育講演、シンポジウム、企業セミナーなどのお願いや調整などは可能な限り金沢大学皮膚科内の事務局で行うようにしました。学会の運営に貢献していただいたすべての方に心より感謝申し上げます。

